

暖地に向く飼料作物の栽培と草地改良

九州大学助教授・農学博士
江 原 薫

はしがき

このたび本社の求めに応じて、暖地の飼料作物の栽培及び草地改良について連載講義をすることになった。いわゆる暖地の飼料作物とか草地改良とかいうことは、まだ研究も実際もその経験が少い。

筆者は昭和十年から十四年まで、北海道農業試験場で飼料作物を研究し、現在暖地で研究を続いているが、寒地と暖地とを比較して暖地の飼料作物の栽培、草地改良はかなりむずかしい点があるようだ。これがわれわれ技術者がまた完全に暖地そのものを理解していない点が多いのである。また一方暖地は気候が暖いからといふので、一般も亦無理な注文をするのでなかろうか。例えば年中青草を生産したいといふような、虫のよい注文が多いのでなかろうか。こんな注文のため無理をして却つて失望することが多いようだ。



この図では大まかに
いつて東海、南海、瀬

一つの例として稻を考えて見よう。この熱帶原産の作物は、暖地ではどんなにその偉力を發揮するかと考へるかも知れないが、鹿児島、宮崎県などのような日本の代表的暖地の県における米の反当生産収量は北ヨーロッパあるいはアメリカ北部で発達したものであるから、暖地でこれ等を栽培するには相当の工夫研究を要するわけである。

まして有名な飼料作物の多くのものは、決して標準以上に高いものでない。まして有名な飼料作物の多くのものは、決して標準以上に高いものでない。

北ヨーロッパあるいはアメリカ北部で発達したものであるから、暖地でこれ等を栽培するには相当の工夫研究を要するわけである。

一 いわゆる暖地の範囲とその特徴

いわゆる暖地と称する地帯はと聞かれる

どちらよつと困るが、わ

れわれは一般に比較的

暖いところと解してい

る。一般に緯度の低い

ところは高緯度のとこ

ろよりも暖いのが普通

であるが、これも海岸

の影響を受けて必ずし

も南といつても北より

暖いとは限らない。ま

た低緯度のところでも

高地では気温は低地よ

りも遙かに低い。

上図はわが国の農業

と気象との関係から大

まかに農業地帯を分け

各地とも少いことである。

二 従つて八月には雨量が少く、暑いために「ヒデリ」になることが少くない。南

は海拔も高く、夏、冬ともに冷涼である。

モ瀬戸内海沿岸地方などは比較的雨が少

い。然し北海道のように年九〇〇ミリ〇

〇〇ミリというような雨量のところは極

めて少ない。

高知は年二、六六四ミリ、鹿児島は二、

一五六ミリという多くの雨量を示し、ま

た阿蘇山のような高地では二、八四五ミ

リに達している。

八 雨量の季節的な変動が甚しい。わが国

の雨量の季節的な分布は一般に夏季に多

いが、暖地では特にこの傾向が甚しい。

概して六月の梅雨時の雨量が最も多く、

次いで七月、九月という順序である。然

し高知などは六月三三四ミリ、七月三二

八ミリ、八月三二〇ミリ、九月三九八ミ

リというように九月が最も雨量が多い。

戸内海沿岸、北九州地方はいわゆる暖地の範囲に入れてよいであろう。山陰、東山、関東は準暖地に入るであろう。勿論こんな気候の推移は一般に連続するもので、鋭く区画を引くことは出来ない。また暖地といつてもその程度も色々である。

暖地の特徴を一まとめにして、いうことは

出来ないが、大体次の点があげられよう。

イ 温度が一般に高い。夏でも冬でも温度は一般に高く、秋蒔の作物が多い。

然し暖地でも、九州の阿蘇、久重地方

